（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス　ＰＩＥＣＥ串戸			
○保護者評価実施期間	令和6年　10月　22日		～	令和6年　11月　22日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	31名	（回答者数）	30名
○従業者評価実施期間	令和6年　10月　22日		～	令和6年　10月　31日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	10名	（回答者数）	10名
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年　11月　30日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられている。	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っている。こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて支援を行っている。	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援管理責任者だけでなく常勤職員全員で放課後等デイサービス計画（個別支援計画を作成している。
2	こどもは安心感をもって通所している。こどもは通所を楽しみにしている。事業所の支援に満足している。	特に遊びや体験活動については多彩なプログラムを用意している。コミュニティにおいて自宅とも学校とも隔離された、自分にとって心地よい時間を過ごせる第三の居場所になるように支援している。	土曜日の活動プログラムの立案をチームで行い、平日の活動プログラムが固定化しないよう新しい教材やボードゲームを取り入れ支援を工夫している。
3	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参加している。	同じ会社のグループに相談支援事業所を持っており密に連絡を取り合っている。日頃からこどもの状況を連携してお互いに保護者に伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解をしている。	本人支援、家族支援、移行支援、地域支援・地域連携のねらい及び支援内容も踏まえながら、中学校・高校進学、就職の際にこどもの支援に必要な将来の目標を適切に設定し、その上で具体的な支援内容を決めている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がなされていない。	コロナ渦のため多数の保護者が集まる交流機会を積極的に行うことができなかった。	今後グループでの総会で保護者研修や交流機会を再開する予定。
2	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がない。	中高生を中心に17：00から支援しており、放課後児童クラブや児童館とは支援時間が異なり接点がない。	土曜日の外出支援のメニューとして、地域の作業所が行うイベント等に参加する機会を設ける。
3	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていない。	管理者会議で各種委員会を立ち上げ、研修、事業所内普及、マニュアル等の策定、避難訓練は実施しているが、保護者には契約時に説明することにしており発信の頻度が少ない。	今後は改定された内容を担当者会議や会報で伝えていくようにする。令和6年度は串戸地区自主防災会のアプリを登録。避難所に指定されている金剛寺小学校の避難所運営体験に参加し、串戸地区自治協議会・自主防災会との連携を行った。